使用上の注意改訂のお知らせ

心臓選択性 β 遮断剤

アテノロール錠 25mg「日医工」 アテノロール錠 50mg「日医工」

アテノロール錠

(旧販売名:メチニン錠 25mg/メチニン錠 50mg)

製造販売元 日 医 工 株 式 会 社 富山市総曲輪1丁目6番21

心臓選択性 β 遮断剤

アテノロール錠 25mg「NikP」 アテノロール錠 50mg「NikP」

アテノロール錠

販売元日医工株式会社 富山市総曲輪1丁目6番21 製造販売元日医工ファーマ株式会社

この度、上記製品につきまして「使用上の注意」の一部を改訂(下線部分)いたしましたので、お知らせ申し上げます。

なお,改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでには若干の日数が必要ですので,今後 のご使用に際しましては下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

<改訂内容>(_____:自主改訂)

改 訂 後			現 行			
3. 相互作用			3. 相互作用			
併用注意(併用に注意すること)			併用注意(併用に注意すること)			
薬剤名等	臨床症状·措置方法	機序·危険因子	薬剤名等	臨床症状·措置方法	機序·危険因子	
交感神経系に対し	交感神経系の過剰	相互に作用(交	交感神経系に対し	交感神経系の過剰	相互に作用(交	
抑制的に作用する	の抑制 (徐脈, 心	感神経抑制作	抑制的に作用する	の抑制 (徐脈,心	感神経抑制作	
他の薬剤	不全等)をきたす	用)を増強させ	他の薬剤	不全等)をきたす	用)を増強させ	
レセルピン,_	ことがあるので,	る。	レセルピン等	ことがあるので,	る。	
β 遮断剤 (チモロ	減量するなど慎重			減量するなど慎重		
ール等の点眼剤	に投与すること。			に投与すること。		
を含む) 等						
(現行どおり)			(略)			
クラスI抗不整脈剤	過度の心機能抑制	抗不整脈剤は	クラス I 抗不整脈剤	過度の心機能抑制	クラスI抗不	
ジソピラミド,	(徐脈, 心不全等)	陰性変力作用	ジソピラミド,	(徐脈, 心不全等)	整脈剤は陰性	
プロカインアミド,	があらわれ、心停	及び陰性変時	プロカインアミド,	があらわれ、心停	変力作用及び	
アジマリン等	止/洞停止に至る	作用を有する。	アジマリン等	止/洞停止に至る	陰性変時作用	
クラスⅢ抗不整脈剤	可能性があるの	β 遮断剤もカ		可能性があるの	を有する。β 遮	
アミオダロン等	で,減量するなど	テコールアミ		で、減量するなど	断剤もカテコ	
	慎重に投与するこ	ンの作用を遮		慎重に投与するこ	ールアミンの	
	と。	断することに		と。	作用を遮断す	
		より心機能を			ることにより	
		抑制するため,			心機能を抑制	
		併用により心			するため,併用	
		機能が過度に			により心機能	
		抑制される。			が過度に抑制	
					される。	

	改訂後			現 行	
薬剤名等	臨床症状·措置方法	機序·危険因子	薬剤名等	臨床症状·措置方法	機序·危険因子
麻酔剤	反射性頻脈が弱ま	麻酔剤により	麻酔剤	反射性頻脈が弱ま	麻酔剤により
セボフルラン等	り,低血圧のリス	低血圧が起こ	エーテル等	り、低血圧のリス	低血圧が起こ
	クが増強すること	ると反射性の		クが増強すること	ると反射性の
	がある。また,過	頻脈が起こる。		がある。また,過	頻脈が起こる。
	度の心機能抑制	β遮断剤が併		度の心機能抑制	β遮断剤が併
	(徐脈, 心不全等)	用されている		(徐脈, 心不全等)	用されている
	があらわれ、心停	と, 反射性の頻		があらわれ、心停	と, 反射性の頻
	止/洞停止に至る	脈を弱め, 低血		止/洞停止に至る	脈を弱め, 低血
	可能性がある。	圧が強められ		可能性がある。	圧が強められ
	陰性変力作用の小	る可能性があ		陰性変力作用の小	る可能性があ
	さい麻酔剤を選択	る。		さい麻酔剤を選択	る。
	すること。また,	また, 陰性変力		すること。また,	また, 陰性変力
	心筋抑制作用を有	作用を有する		心筋抑制作用を有	作用を有する
	する麻酔剤との併	麻酔剤では, 相		する麻酔剤との併	麻酔剤では,相
	用は出来るだけ避	互に作用を増		用は出来るだけ避	互に作用を増
	けること。	強させる。		けること。	強させる。
(現行どおり)			(略)		
フィンゴリモド	フィンゴリモドの	共に徐脈や心			
	投与開始時に本剤	ブロックを引			
	を併用すると重度	き起こすおそ	=7 +6 +. 1		
	の徐脈や心ブロッ	れがある。	← 記載なし		
	クが認められるこ				
	とがある。				

*改訂内容につきましては DSU No.226 に掲載の予定です。

<改訂理由>

・他の β 遮断剤の「使用上の注意」の「相互作用」の項に記載される内容のうち、 β 遮断剤において共通の相互作用と考えられるものを本剤においても「相互作用」の項に追記し、注意喚起を行うことといたしました。

なお, 改訂後の添付文書は日医工株式会社ホームページ

http://www.nichiiko.co.jp/medicine/medicine_m_seihin.html

及び医薬品医療機器情報提供ホームページ http://www.info.pmda.go.jp/ に掲載いたします。